

哲学委員会いのちと心を考える分科会（第25期・第1回）
議事要旨

日時：令和2年12月5日（オンライン開催）

- ① 小林委員（阪大）の挨拶ののちに執行部の紹介と承認が行われた（審議事項①の承認）
執行部（委員長：土井健司、副委員長：田坂さつき、幹事：加藤泰史）
- ② 田坂副委員長の司会のもとで各委員が自己紹介を行った。順序は以下の通りである。 田坂（立正大）・加藤（椋山女学園大）・土井（関西学院大）・島菌（上智大）・鈴木（山口大）・小島（高知大）・横山（東大・情報学環）・石井（北大）・一ノ瀬（武蔵野大）・戸田山（名古屋大）・香川（山梨大）
- ③ 田坂副委員長が「第25期「いのちと心を考える分科会」資料」に基づいてこれまでの活動・課題や今後の活動などに関して説明を行なった（提言の英訳、分科会のMLを作成するために新規の委員は田坂副委員長にメルアドを知らせること・従来の経験からして旅費などは不足するので科研費などで手当てする必要があること・この分科会で取得した科研費の招聘者を再度繰越申請すること・ゲノム編集関係の論集を発行予定であること・「ヒト受精胚に遺伝情報改変技術等を用いる研究に関する倫理指針」改正案及び「ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針」改正案の問題〔この分科会の提言を無視した形で政府が基礎研究推進のパブコメを行おうとしていること〕などが説明され、審議事項②について承認された）
- ④ 小林委員から財政法の縛りで旅費を他の項目に変えることはできないことと、新規委員として建石真公子（法政大学）の名前が披露されメンバーとして承認された。
- ⑤ 石井委員から文科省のパブコメに関して執行部で対応を検討するようにとの意見があった。それに関して、土井委員長は、分科会で出すかどうかを検討したのち見解が一致しなければ、具体的には個人で出すという選択肢になろうという見通しを述べて、執行部でパブコメに関して検討するとしてその方針が承認された（審議事項③）。
- ⑥ 田坂副委員長が説明された本年度の計画に関しても全て承認されたが、島菌委員からは今年生じた「コロナ禍」・「安楽死問題」・「生殖医療」の諸問題を取り扱うバランスをどのように考えるべきかを検討する必要があるとともに、これらの問題に関して理系の研究者の協力を得るべきだとの意見が出さ

れた。それに関して一ノ瀬委員からオリンピックとコロナの問題もまだあるので、「コロナ禍」の問題をこのタイミングでできる範囲で行うべきではないかと意見も出された。

- ⑦ 最後にこれらの意見も踏まえてトリアージの問題なども含めて本年度の計画を遂行したい旨の締め括りの言葉が田坂副委員長からあり、分科会を閉じた。

以上